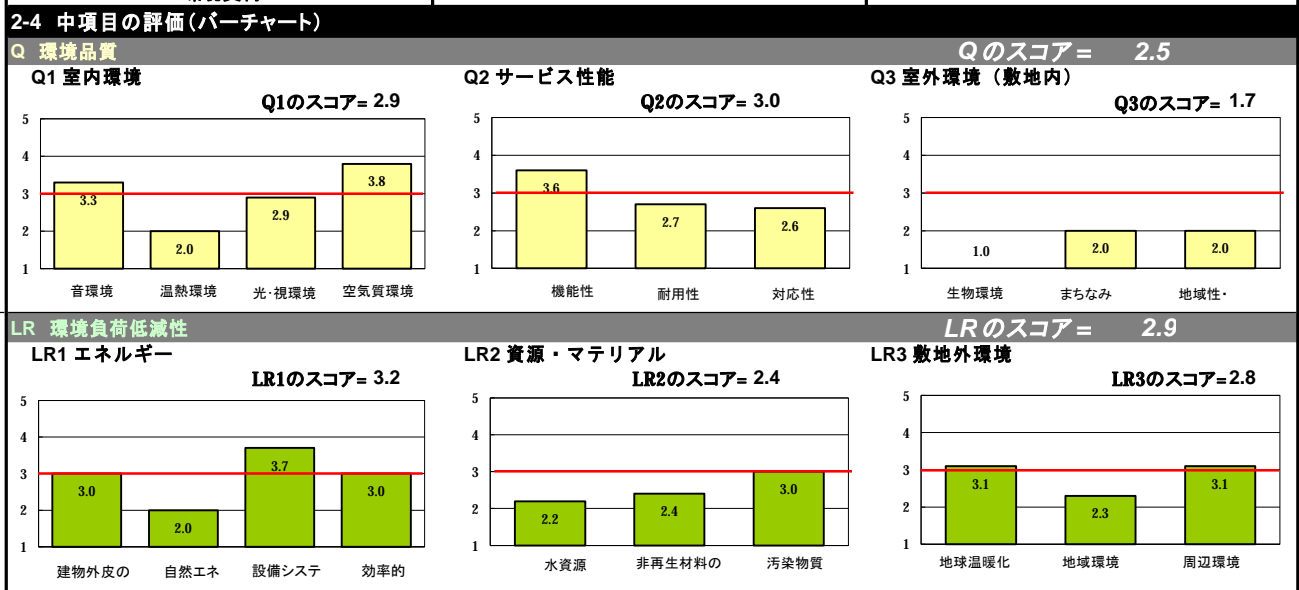
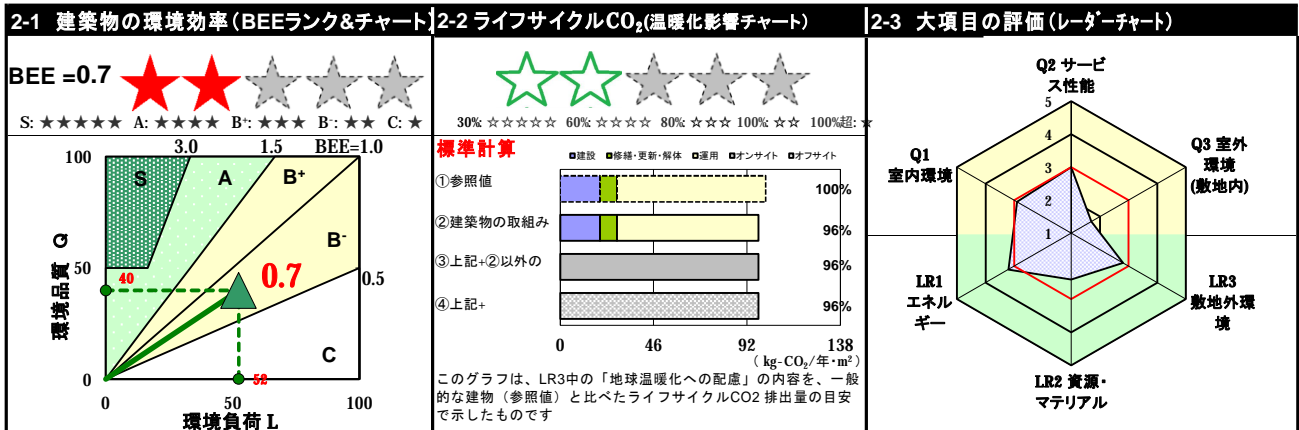


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)レジュールアッシュ長田西 新	階数	地上14F
建設地	大阪府東大阪市長田西	構造	RC造
用途地域	近隣商業地域、防火地域	平均居住人員	104 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年4月 予定	評価の実施日	2023年10月4日
敷地面積	640 m ²	作成者	株式会社アーキ・テック設計事務所 野嶋 一広
建築面積	269 m ²	確認日	2023年10月4日
延床面積	2,921 m ²	確認者	株式会社アーキ・テック設計事務所 西村 昌高



3 設計上の配慮事項

総合	その他
内装はほぼ全面的にF☆☆☆☆を使用し、T-2のサッシの採用など居住環境に配慮した。 LED照明器具の採用など、環境に配慮した計画をしている。	特になし。
Q1 室内環境 全体的にF☆☆☆☆建材を使用し、24時間換気とする事で、ホルムアルデヒドの発散を抑えた室内環境としている。	Q3 室外環境(敷地内) 防犯カメラを配置し、防犯性を高めている。
LR1 エネルギー 共用部にLED照明器具を採用している。	LR3 敷地外環境 自転車の附置義務台数を確保している。
Q2 サービス性能 情報社会に対応し、ゆとりある生活を確保できるようGbit(ギガビット)クラスのブロードバンド対応とし、機能性に努めた。	
LR2 資源・マテリアル 特になし。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

大阪府の重点評価(結果)

【建物概要】	建物名称	(仮称)レジューラルアッシュ長田西 新築工事					
	建設地	大阪府東大阪市長田西					
	用途/区分	集合住宅					
【評価結果】	CASBEE 総合評価					B-	
①	CO2削減					3	
②	みどり・ヒート アイランド対策					2	
③	建物の断熱性					3	
④	エネルギー削減					4	
⑤	自然エネルギー直接利用					—	
	再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—

エネルギー消費量の報告	対象外
-------------	-----

【評価項目】			
項目	評価内容	スコア	評価
① CO2削減	CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価	3.1	3
② みどり・ヒートアイランド対策			
生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価	1.0	2
敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3-3. 2」のスコアによる評価	2.0	
温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3-2. 2」のスコアによる評価	2.0	
③ 建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価	3.0	3
④ 設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価	3.7	4
⑤ 自然エネルギー利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価	2.0	—
エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。	報告する 報告しない	-

【その他】		
	技術の名称	考慮事項
先進的技術の導入		
特に配慮した事項		